

令和6年度 自 己 評 価 表

47 宇和島南中等教育学校

教育方針		心を磨き、今こそ輝こう「宇南中等PRIDE」		重点目標	個性を尊重する教育の推進 ～思いやりと進取の精神を身に付けた南中生の育成を目指して～
領域	評価項目	具体的目標（○数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	分かる授業を展開し、基礎・基本を定着させ、学力の向上に努める。 ○学校評価アンケート(生徒用)による評価 A:3.4以上 B:3.3 C:3.2 D:3.1 E:3.0以下	A	○学校評価アンケート(生徒用)による評価は3.5であった。	小テストや課題の充実により、基礎・基本の定着、応用力の更なる伸長を目指したい。
		出席する、継続することの大切さを理解させる。 ○1か年皆勤率 60%以上 A:60%以上 B:59～55% C:54～50% D:49～45% E:45%未満	E	○1か年皆勤率は34.2%であった。	登校し、授業に出席することの大切さを生徒に引き続き理解させたい。
		ICT機器の活用を推進し、分かる授業を通して生徒の学習意欲の向上に努める。 ○南校ティーチャーズウィーク（相互授業参観〔年1回〕）の実施期間中に、1人1台端末等のICT機器を活用した授業 60%以上	B	○南校ティーチャーズウィーク期間〔6月〕中にICT機器を活用した授業の平均71%	1人1台端末等のICT機器を効果的に活用することはもちろん、生徒の学習に対する興味や意欲の向上に結びつくよう引き続き授業改善に努めたい。
	家庭学習の充実	目標に向かって自主的に学習する姿勢を育成する。 ○家庭学習時間 2年生 120分以上 A:120分以上 B:119～110分 C:109～100分 D:99～90分 E:90分未満 3・4年生 160分以上 A:160分以上 B:159～150分 C:149～140分 D:139～130分 E:130分未満 5・6年生 200分以上 A:200分以上 B:199～190分 C:189～180分 D:179～170分 E:170分未満	B	○家庭学習時間（ ）内は塾での学習時間を含んだ数値 2年生 122分 (137分) 3・4年生 133分 (151分) 5・6年生 207分 (246分)	今年度1回目の学習時間調査は、期末考查中の実施になったため、どの学年も昨年度より時間が増加している。特に、3年生と6年生の時間数が増加しており、前期・後期の最終学年としての自覚を感じる。ただ、日々の学習に向けての準備、進路実現に向けての取組など課題が残るため、適切な目標設定をさせ、意欲的に学習できるよう指導したい。
生徒指導	生活指導の充実	指導方針を明確にし、全教職員が指導にあたる組織づくりに努める。 家庭・地域及び関係機関等、外部と連携して指導する。 ○問題行動発生件数0を目指す。	B	指導方針に基づき、教職員が連携した指導ができている。 ○問題行動発生件数 前期3件 後期1件	年度初めの生徒指導職員会をはじめ、学年会や職員会議及び職員朝礼などで、教職員間の情報交換をスムーズに行い、常に周知徹底を図り、今後も連携した指導を行うことができるように努めたい。
	部活動の充実	他校との連携を図りながら、達成感が得られるように部活動の活性化及び能力向上につながる指導方法を工夫する。 ○県総体出場者 前期50人以上 後期100人以上 ○全国大会出場 体育・文化部含め4部以上	B	どの部も部員数減少の中、工夫した取組をしている。また、部活動指導員、外部指導者を増やし、より専門性の高い指導を行うことができるようになった。 ○県総体出場者 前期40人 後期129人 ○全国大会出場 日本文化部（囲碁、将棋）、弓道部、邦楽部 弓道 国民スポーツ大会 準優勝 邦楽 全国高文祭 日本音楽部門 優秀賞（文化庁長官賞）	部活動の位置づけが大きく変化している社会状況を見ながら、生徒へ活動の意義を理解させ、他校との連携を工夫したい。
進路指導	進学・就職指導の充実	進学希望者に対して、進路実現を図る。 ○国公立大学合格者 45人以上 A:45人以上 B:44～40人 C:39～35人 D:34～30人 E:30人未満 ○難関国公立大学と医学部医学科合格者 5人以上 A:5人以上 B:4人 C:3人 D:2人 E:1人以下	A	○国公立大学合格者 51人（R7年3月12日現在） ○難関国公立大学と医学部医学科に11人が出願しているが、現在、北海道大、名古屋大、大阪大、神戸大(3)、愛媛大医・医(2)、獨協大医・医・医に9人が合格している。	前期試験を終えた時点で国公立大学に51人合格、難関国公立大学、医学部医学科を多くの生徒が受験し、合格しており、よい成果を上げることができた。受験を最後まで全うした生徒の結果にも期待したい。今後も生徒が高い志を持ち、粘り強く努力できるよう指導していきたい。
		就職希望者に対して、進路実現を図る。 ○就職希望者に対する面接 2回	A	今年度は公務員希望者が1人のみであった。担任を中心に早めの対策ができ、合格できた。	今後も個別に指導する体制をとるが、就職については早めに準備するよう、今まで以上に取り組んでいきたい。
人権・同和教育	人権意識の高揚	差別や偏見のない社会を目指す生き方について共に学ぶ。 慈善活動の企画・参加を奨励する。 ○「人権だより」の発行 月1回	A	今年も人権委員会を中心に、ウクライナとロシア両国並びに世界の平和を願い、中庭でひまわりを栽培、募金活動を実施した。また差別解消に向けて『宇和島南人権ソング』を生徒自身が作詞・作曲し、宇和島市内の人権フェスタで披露することができた。 ○「人権だより」を毎月発行し、人権意識の高揚を図ることができた。	引き続き「今、自分たちにはできること」を考え、平和を願う活動や地域と協働した活動を実践し、人権意識の高揚を図りたい。

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）

領域	評価項目	具体的目標（〇数値目標）	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	いじめを許さない心、命や人権を大切にすることを育成し、気軽に相談できる体制をつくる。 校外内外での研修を充実させ、全教職員が共通の意識をもっていじめ防止・発見対応に努める。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートの実施 年2回 ○月末アンケートの実施（前期生）	B	いじめ問題等の防止・解決に向けて、教職員研修、生徒への啓発活動、いじめ問題等対策委員会を実施した。 ○学校生活をよりよくするためのアンケートを年2回、また月末アンケート（前期生向け）を実施し、悩みや相談に対して迅速に対応することができた。	『学校いじめ防止基本方針』の周知やいじめ問題等の防止・解決に向けて、引き続き、教職員研修や啓発活動、相談体制を充実させたい。また、いじめ問題等に関しての認知、初期対応を迅速かつ丁寧に組織立てて行い、各課や関係機関との連携を深めながら、居心地の良い学校、環境づくりに努めたい。
		道徳・学級活動・ホームルーム活動を活用し、生徒の成長に応じた指導を行い、いじめを許さない集団づくり並びに差別の解消に向けた実践力を養う。 地域と連携した活動に積極的に参加する。	C	差別解消やいじめ防止に向けた取組としては一定の評価を得られているが、成長に応じた系統的な指導の在り方や、実践力に関しては課題が残る。	引き続き、人権課題やいじめ問題の解決に向けて、生徒の成長に応じた実践力を養う活動を進めていきたい。
健康・安全指導	心身の健康増進	倫理意識の高い職場づくりを推進するとともに、職場で気軽に相談し合える環境を整える。 家庭と連携を図り、健康診断の事後措置を徹底し、疾病の受診率向上を目指すとともに、感染症や熱中症予防に努める。 ○「保健だより」「食育だより」の発行・ホームページへの掲載 月1回	B	養護教諭の尽力により、保健室を情報共有や相談の場所として十分に活用することで、心身の健康増進へとつなげることができた。 ○「保健だより」「食育だより」を毎月発行し、ホームページにも掲載した。	常に改善策を講じ、生徒や教職員の心身の健康増進につながる取組を行いたい。
		特別支援教育校内委員会にて、配慮を要する生徒への理解、共有を図り、教職員、相談員が連携し、柔軟な対応を行う。前期生は「月末アンケート」を実施し、生徒が相談しやすい環境を整える。	B	配慮を要する生徒に対して、担任と連携し共通理解を図りながら進めることができた。また、別室登校生徒のケアをしたり、生徒が通院している病院に同席したり、病院やSSWと連絡を図りながら進めることもできた。	配慮を要する生徒に対して、担任、学年主任、保護者、保健室、支援員、SLA、SSW、病院等、生徒と密に関わる先生方との連携を更に深めていきたい。
安全指導	点検の強化	非常変災や事件・事故、感染症などに対処できるよう役割分担を明確にし、準備・訓練等を充実させる。 地域の防災活動との連携を図る。 ○実践的な防災避難訓練等の実施年2回。緊急地震速報システムを利用した訓練1回、予告無し訓練1回。	A	環境委員の生徒中心に、東北への視察やぼうさいこくたいに参加し、地域防災リーダーの養成を行った。防災士の資格も5人の生徒が取得できた。 ○防災避難訓練等については、予定通り実施した。	南海トラフ地震への備えがより重要になってきている事をふまえ、生徒の防災意識を更に高めさせ、より実践的な避難訓練を継続して実施していく。また、そのための防災士の資格取得等を勧めるなかで、地域の防災リーダーの育成にも努めていきたい。
		交通ルールの遵守に努め、交通事故を防ぐ。特に、自転車による登下校時のマナーアップに努める。 ○交通事故発生件数0を目指す。	B	委員会活動、街頭指導等から交通マナーアップを呼び掛けた。 ○交通事故報告 6件	継続した指導の徹底を図り、交通マナーアップの向上に努める。全校集会などで注意喚起を行いたい。
		定期的な安全点検及び校内巡視を徹底し、危険箇所等のチェックを行い、迅速な対応を図る。 備品整備の充実等、生徒が安全快適な学校生活を送れるよう環境整備に努める。	B	毎学期一斉点検実施のほか、随時安全点検を行い危険箇所等の早期発見、早期対応に努めたほか、長寿命化計画におけるトイレ改修や照明LED化、DX事業にて体育館プロジェクタースクリーン装置、ミーティングボード整備を行った。	学校再編における大規模な設備改修が控えており、引き続き危険箇所等の早期発見、早期対応に努め、生徒がより安全快適な学校生活を送れるよう環境整備を進めたい。
図書・視聴覚・情報教育	読書指導の充実	生徒が本に親しみを感じ、読書習慣を身に付けられるように、教科や学級活動、ホームルーム活動等も利用して指導する。 ○書籍年間貸出冊数 一人年間6冊以上 A: 6冊以上 B: 5～4冊 C: 3～2冊 D: 1冊 E: 0冊 ○読書冊数 一人年間17冊以上 A: 17冊以上 B: 16～14冊 C: 13～10冊 D: 9～6冊 E: 6冊未満	B	○書籍年間貸出冊数 一人 4.7冊（前期2.8冊/後期5.9冊） ○読書冊数 一人 15.3冊（前期16.2冊/後期14.7冊）	昨年に比べて前期生の貸出冊数と読書冊数が大幅に減少している。また、本を読む生徒と読まない生徒の差もなかなか埋まらない。「朝の読書」の取組に加え、学級活動やホームルーム活動、各教科においても積極的な図書館の利用を促し、読書案内のきっかけになるように努めたい。
	情報処理教育及び情報管理	1人1台端末等のICT機器を授業等で効率よく活用するために、学習支援システムの研究やスキルアップ研修の機会を増やす。 情報セキュリティ意識の高揚に努め、管理体制を明確にして個人情報等の管理を厳密に行う。	B C	情報セキュリティ研修は職員会議後に実施したが、EILS等の研修は、各教職員が空き時間を利用して参加する勉強会形式で実施した。また、Teamsにマニュアル等をあげ、必要に応じてスキルアップできる環境を整えた。 情報セキュリティ研修を2回に分けて実施した。情報資産の重要度の分類等による、校務系を活用した情報管理の周知徹底を図ることで、情報漏洩防止に努めた。	勉強会形式の研修は参加者がなかなか集まらなかったため、各教科・学年の情報担当に連絡係を務めてもらう等、あまり負担にならないような研修形式やスキルアップの方法を考えていきたい。 学習系及び、校務系の活用による重要ファイルの分類等を行い、一層のセキュリティ維持に努める。生徒については、「情報」の授業等を活用し、更に情報セキュリティの意識高揚に努めたい。
業務改善	適切な勤務時間	働き方改革を推進する。行事や会議の縮減・簡素化、部活動休業日の徹底を図り、最低週1回は定時退勤を目指すなど、超過勤務削減に努める。	B	支援員の配置、家庭訪問及び定例の運営委員会の廃止、会議時間の短縮、最終勤務者の状況を把握し面談・声掛け、行事に応じた授業時間数の削減、休日の緊急連絡の管理職による対応等に加え、自動探点補助システムの利用や庶務事務システムの導入などICT化を実践し、成果が出てきた。	ストレスチェックについては、上司や同僚からのサポートなど全ての項目で県平均を上回っていることが、業務の円滑化やワークライフバランスの向上につながっていると思われる。今後も教職員のやりがいや意欲を高める取組を継続していくとともに、週1回の定時退勤を目指したい。
その他	特色ある学校教育の推進	グローバル・アクティビティ（総合的な探究の時間）を通して、グローバルな視点で地域課題を捉え、解決を図るグローバルリーダーを育成する。 ○各種コンテストへの応募・連携事業への参加10件以上 ○海外との交流活動や短期語学留学プログラムへの参加 延べ20人以上 ○課題研究活動への大学教授及び地域人材の招へい 延べ30人以上	A	○各種コンテストへの応募・連携事業への参加（18件） 愛媛大学社会協創コンテスト/愛媛大学アントレプレナーシップ/全国高校生フォーラム/愛媛大学南予水産研究センター訪問/じゃこ天製造体験授業（宇和島水産高校合同）/千土あす青春18高校生シンポジウム/大洲フィールドワーク（大洲高校合同）/長浜フィールドワーク（長浜高校合同）など ○海外との交流活動や短期語学留学プログラムへの参加（延べ50人）夏休みオーストラリア短期語学研修/修学旅行時ハワイ・ホウ高校との現地交流会/ハワイインターン生との交流 ○課題研究活動への大学教授および地域人材の招へい（延べ41人）	地域DXやスポーツといった研究カテゴリーを増やし、専門家を招へいすることで、生徒の興味関心に対応していきたい。また、地元企業との連携を強め、メンターの役割を担っていただく関係性を築く活動を行っていきたい。
	学校経営・運営に対する理解と評価	保護者と連携し、魅力ある学校づくりを目指して行事の工夫・改善を行う。 ○授業公開日 参観保護者 40%以上 ○PTA総会 参加率 40%以上 ○保護者との交流行事 年5回以上 ○ホームページアクセス数 1日平均 500件以上	B B	○授業公開日参加率…達成率約41%（472家庭数/195人参加） ○PTA総会参加率…達成率約10%（472家庭数/45人参加） ○保護者との交流行事年5回実施…達成率100% 行事公開をはじめ授業公開における魅力ある内容での実施に努めた。また、PTA総会においては吹奏楽・邦楽・ダンスの発表会を始めるなど魅力発信の努力をした。 ○ホームページアクセス数 1日平均 383件（R7年3月11日現在）	行事公開をはじめ授業公開における魅力ある内容での実施を継続したい。また、PTA総会においては吹奏楽・邦楽・ダンスの発表会を始め、進路学習活動も加えていくなど魅力発信と保護者の興味を引く内容を実施したい。内容告知を早くするとともに周知方法の改善に努めたい。 ホームページに加え、インスタグラムを積極的に活用する。個人情報の取扱いに留意しながら、鮮度の高い情報の発信に努めたい。

評価の段階（ A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった ）